

発表項目 (行事名)	令和5年度(2023年度)第1回タンチョウ越冬分布調査の結果について		
記者レクチャー	(実施日時)	発表者	

概要

【ポイント】

絶滅危惧種タンチョウの越冬分布・規模の把握等を目的として毎年実施している本調査について、今年度1回目の調査を10(総合)振興局管内で実施し、前年度1回目の調査より114羽多い、1,086羽のタンチョウが確認され、宗谷総合振興局管内では、8羽のタンチョウが確認されました。

1 調査実施日時等

	令和5年度(2023年度)第1回	[参考] 令和4年度(2022年度)第1回
調査日時	12月5日(火) 8:50~9:10	12月2日(金) 8:50~9:10
調査区域	10振興局 44市町村	10振興局 46市町村
調査地区	計354地区(407箇所)	計362地区(419箇所)
調査協力者	小・中学生など計334人	小・中学生など計406人

2 タンチョウ確認羽数

令和5年度 (2023年度) 第1回	合計:1,086 [成鳥:918、幼鳥:115、不明:16、飼育個体:37] うち野生個体:1,049 [空知:3、石狩:0、胆振:11、日高:4、留萌:0、宗谷:8、オホーツク:0、十勝:209、釧路:756、根室:58]
令和4年度 (2022年度) 第1回	合計: 972 [成鳥:818、幼鳥:98、不明:17、飼育個体:39] うち野生個体: 933 [空知:3、石狩:0、後志:0、胆振:6、日高:6、宗谷:2、オホーツク:0、十勝:198、釧路:668、根室:50]

3 今回の調査結果に対する有識者コメント概要

(有識者: ^{まさとみ ひろゆき} 正富 宏之 専修大学北海道短期大学名誉教授)

- 調査精度向上が認められる十勝・根室管内の確認数が前年同様のレベルであることから、釧路管内での個体の新たな確認が理由と考えられる。
- 個体数増加に伴い分布域を広げつつあり、幅広く環境教育としての調査参加を呼びかけるべき。

その他、結果の詳細については以下のHPに掲載します。

<https://www.pref.hokkaido.lg.jp/ks/skn/tantyou.html>



[hokkaido.lg.jp/ks/skn/tantyou.html](https://www.pref.hokkaido.lg.jp/ks/skn/tantyou.html)

参 考	
-----	--

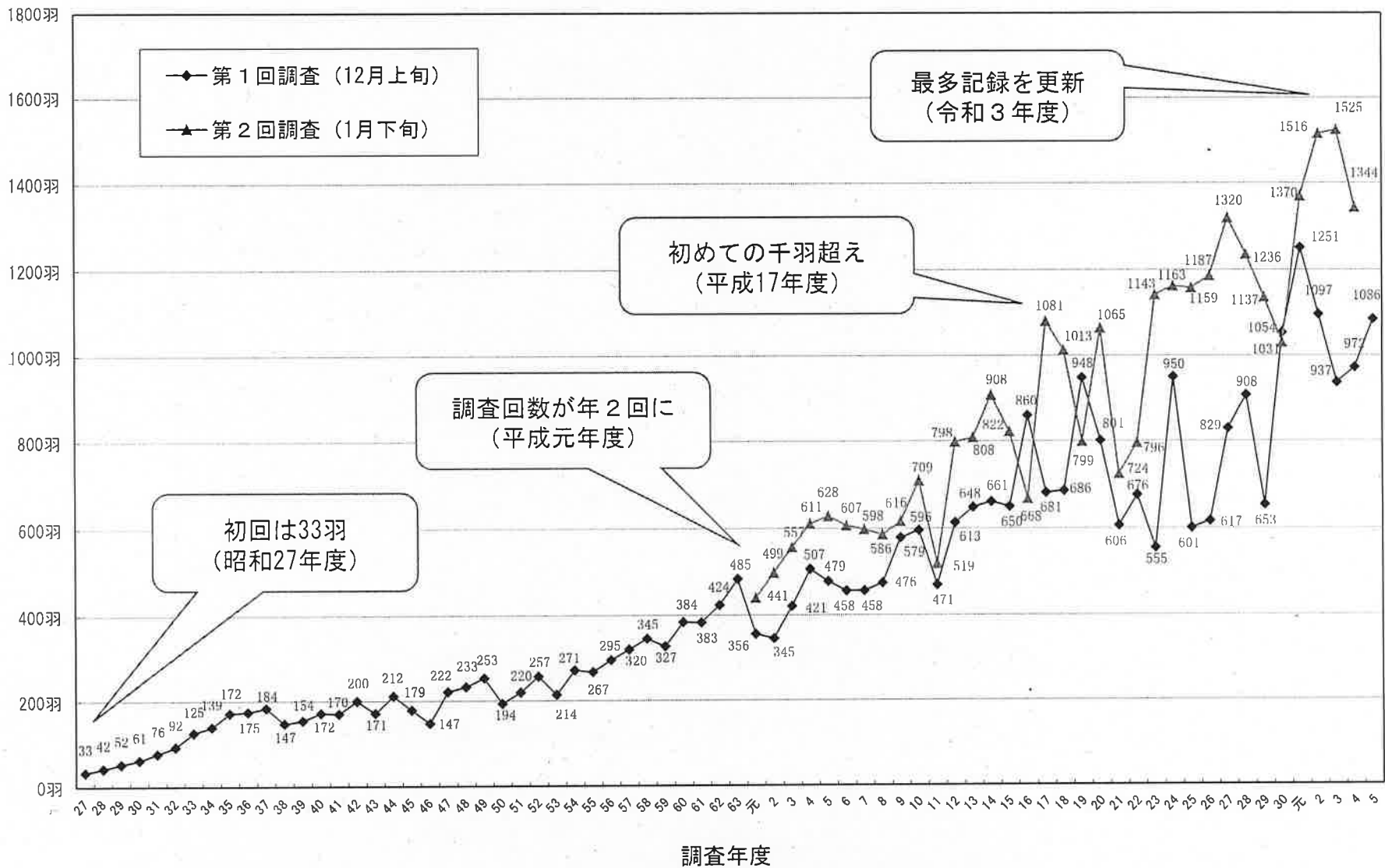
報道(取材)に当たってのお願い	第1回調査では、地元の小・中学校の児童、生徒をはじめ多くの方々の御協力をいただいております。 また、本調査は、平成29年度から北海道と包括連携協定を締結している日本航空株式会社と協働で実施していますので、積極的な報道をお願いします。
-----------------	---

他のクラブとの関係	同時配付 道政記者クラブ及び空知、石狩、胆振、日高、オホーツク、留萌 同時レク 十勝、釧路、根室の各(総合)振興局記者クラブで配布します。
-----------	--

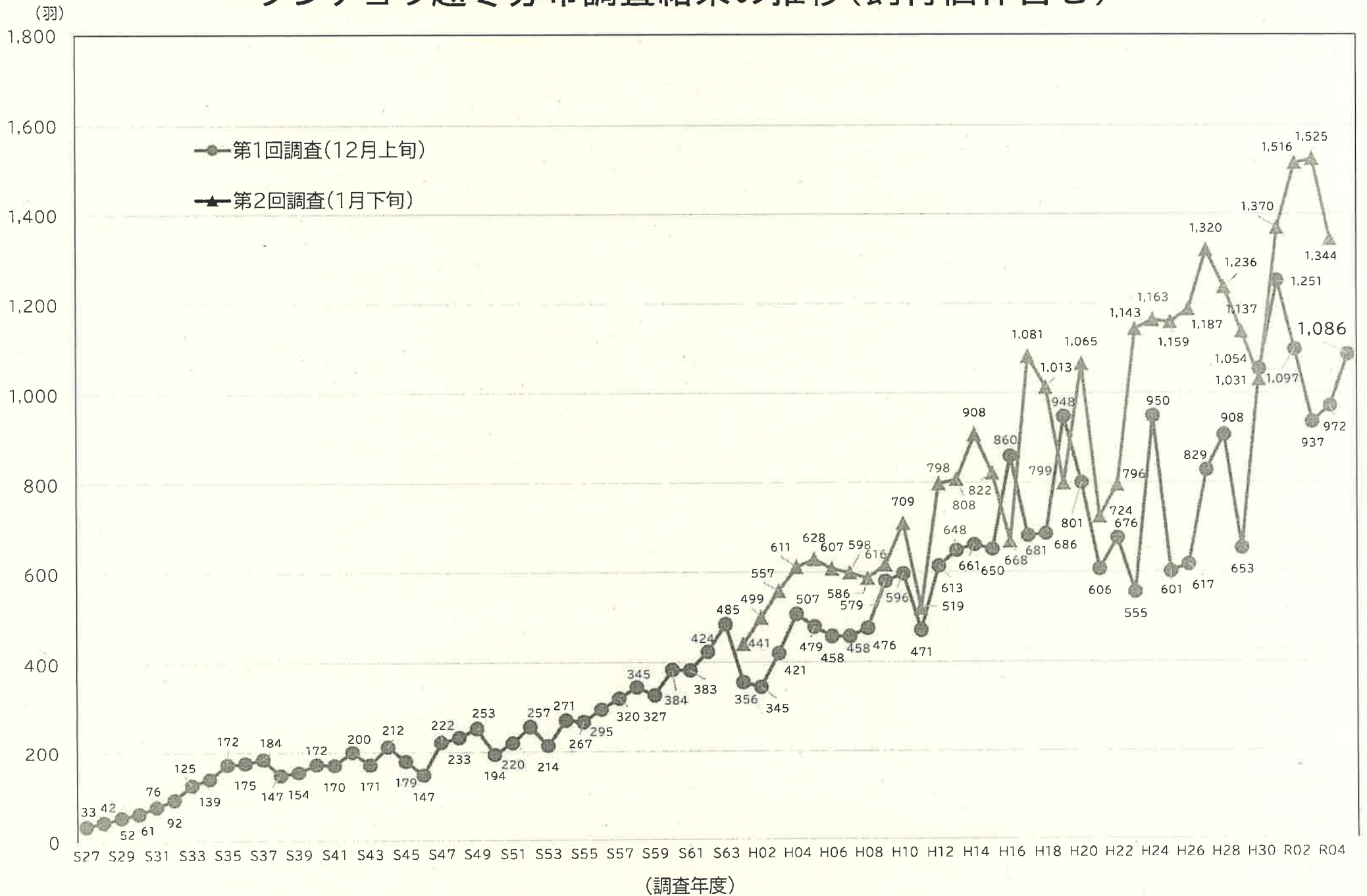
担 当 (連絡先)	宗谷総合振興局保健環境部環境生活課 環境生活課長 渡部 学 電話 ダイヤルイン 0162-33-2919 自然環境係長 黒田 芳人 電話 ダイヤルイン 0162-33-2922
--------------	--

過去のタンチョウ越冬分布調査の結果

○これまでのタンチョウ羽数の推移（昭和27年度から令和5年度 合計羽数）



タンチョウ越冬分布調査結果の推移(飼育個体含む)



令和5年度（2023年度）第1回タンチョウ越冬分布調査の結果について

1 調査の趣旨

本調査は、絶滅危惧種のタンチョウの越冬分布・規模の把握等を目的に、地元小・中学校や関係機関等の御協力のもと、調査の基礎的な手法やタンチョウ保護の歴史について学ぶことができるよう調査を進め、見られた場所、個体数を記録しました。

2 調査日時

令和5年（2023年）12月5日（火） 午前8時50分～9時10分

3 調査区域及び調査地区

(1) 調査区域 10(総合)振興局、44市町村管内のタンチョウ生息地及び飛来地全域

(2) 調査地区・箇所 合計354地区、407箇所

※1地区内に複数の調査箇所を設定する場合があるため、地区数と箇所数は一致しない。

○調査地区所在市町村数の推移 (市町村数)

振興局	令和5年度		令和4年度		令和3年度	
	第1回	第2回	第1回	第2回	第1回	第2回
空知	3		3	3	2	3
石狩	1		1	1	1	-
後志	-		1	-	-	-
胆振	3		4	3	4	3
日高	2		2	2	2	3
留萌	1		-	-	-	-
宗谷	3		4	-	4	-
オホーツク	4		4	4	5	3
十勝	15		15	16	11	12
釧路	8		8	8	8	8
根室	4		4	4	4	3
合計	44		46	41	41	35

○調査地区・箇所数の推移 (地区数(箇所数))

振興局	令和5年度		令和4年度		令和3年度	
	第1回	第2回	第1回	第2回	第1回	第2回
空知	8(8)		8(9)	9(15)	8(8)	8(8)
石狩	1(1)		2(2)	2(3)	3(3)	-
後志	-		1(1)	-	-	-
胆振	20(20)		21(21)	5(6)	13(13)	5(8)
日高	9(9)		8(9)	7(7)	5(5)	8(8)
留萌	1(1)		-	-	-	-
宗谷	6(6)		8(8)	-	6(6)	-
オホーツク	13(13)		15(15)	11(12)	15(15)	7(7)
十勝	101(116)		91(118)	70(89)	78(78)	69(78)
釧路	170(199)		162(187)	134(173)	165(203)	128(182)
根室	25(34)		46(49)	41(43)	19(19)	15(15)
合計	354(407)		362(419)	279(348)	312(350)	240(306)

4 調査主体及び調査協力機関等

(1) 調査主体

北海道（環境省委託）

(2) 調査協力機関等

市町村、市町村教育委員会、釧路市動物園、小・中学校、日本航空株式会社、タンチョウ給餌人など

○調査協力者数

振興局	総計 (人数)	内 訳						教職員	一般
		小学校		中学校		(小計)			
		校数	児童数	校数	生徒数	校数	児童・生徒		
空知	3							3	
石狩	0								
胆振	7							7	
日高	2							2	
留萌	0								
宗谷	2							2	
オホーツク	0								
十勝	26							26	
釧路	273	8	32	5	67	13	99	51	
根室	21							21	
合計	334	8	32	5	67	13	99	184	

※本庁、振興局職員を除く。

5 タンチョウ確認羽数（振興局別）

(羽)

振興局	令和5年度第1回				令和5年度第2回			
	成鳥	幼鳥	不明	計	成鳥	幼鳥	不明	計
空知	2	1	0	3				
石狩	0	0	0	0				
胆振	7	4	0	11				
日高	4	0	0	4				
留萌	0	0	0	0				
宗谷	5	0	3	8				
オホーツク	0	0	0	0				
十勝	183	26	0	209				
釧路	666	77	13	756				
根室	51	7	0	58				
小計	918	115	16	1,049				
飼育個体	35	2	0	37				
合計	953	117	16	1,086				

<過去2カ年実績>

(羽)

振興局	令和4年度第1回				令和4年度第2回				令和3年度第1回				令和3年度第2回			
	成鳥	幼鳥	不明	計	成鳥	幼鳥	不明	計	成鳥	幼鳥	不明	計	成鳥	幼鳥	不明	計
空知	2	1	0	3	0	0	0	0	2	1	0	3	0	0	0	0
石狩	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	2	-	-	-	-
後志	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
胆振	6	0	0	6	0	0	0	0	3	0	0	3	0	0	0	0
日高	5	1	0	6	4	0	0	4	8	2	0	10	0	0	0	0
留萌	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宗谷	2	0	0	2	-	-	-	-	0	0	0	0	-	-	-	-
オホーツク	0	0	0	0	0	0	0	0	8	1	0	9	0	0	0	0
十勝	182	16	0	198	79	3	0	82	126	9	0	135	65	5	3	73
釧路	577	74	17	668	1,049	121	2	1,172	666	58	0	724	1,265	80	37	1,382
根室	44	6	0	50	41	6	0	47	14	1	0	15	29	5	0	34
小計	818	98	17	933	1,173	130	2	1,305	829	72	0	901	1,359	90	40	1,489
飼育個体	34	5	0	39	34	5	0	39	35	1	0	36	35	1	0	36
合計	852	103	17	972	1,207	135	2	1,344	864	73	0	937	1,394	91	40	1,525

※「-」は調査を実施しなかったもの。「0」は調査を実施したが確認できなかったもの。

※各年度の確認羽数の推移については別添グラフ参照。

6 (参考) 調査当日の気象状況

○令和5年度第1回調査(令和5年12月5日 午前9時)

振興局	天候	気温	風向	風速	備考
空知	晴	6.5℃	南	3.7 m/s	札幌管区气象台
石狩	曇	6.5℃	北	2.3 m/s	札幌管区气象台
胆振	晴	6.8℃	北東	1.2 m/s	室蘭地方气象台
日高	晴	6.1℃	北東	2.4 m/s	室蘭地方气象台
留萌	晴	6.6℃	北西	5.5 m/s	旭川地方气象台
宗谷	晴	6.1℃	西北西	2.4 m/s	稚内地方气象台
オホーツク	曇	4.9℃	南西	7.0 m/s	網走地方气象台
十勝	晴	-1.3℃	南	0.8 m/s	帯広測候所
釧路	晴	-0.8℃	南	3.0 m/s	釧路地方气象台
根室	晴	7.9℃	南南西	7.4 m/s	釧路地方气象台

※ 天候は現地調査者からの情報により、その他のデータは気象庁公表データを使用

※ 令和4年度第1回調査(令和4年12月2日 午前9時)

振興局	天候	気温	風向	風速	備考
空知	晴	-3.9℃	南	2.5 m/s	札幌管区气象台
石狩	晴	-4.6℃	南南東	0.7 m/s	札幌管区气象台
後志	晴	-3.8℃	西南西	5.2 m/s	札幌管区气象台
胆振	晴	-3.6℃	北北西	3.6 m/s	室蘭地方气象台
日高	晴	-4.0℃	北	2.2 m/s	室蘭地方气象台
宗谷	曇	-6.2℃	西北西	3.0 m/s	稚内地方气象台
オホーツク	晴	-3.5℃	西北西	1.2 m/s	網走地方气象台
十勝	晴	-2.2℃	西北西	3.4 m/s	帯広測候所
釧路	晴	-2.0℃	北西	5.5 m/s	釧路地方气象台
根室	晴	-1.5℃	西北西	5.8 m/s	釧路地方气象台

※ 令和3年度第1回調査(令和3年12月3日 午前9時)

振興局	天候	気温	風向	風速	備考
空知	雨	5.8℃	南南東	3.1 m/s	札幌管区气象台
石狩	雨	7.7℃	南	9.8 m/s	札幌管区气象台
胆振	曇	9.1℃	南	7.6 m/s	室蘭地方气象台
日高	雨	8.8℃	南	8.2 m/s	室蘭地方气象台
宗谷	雨	3.1℃	北北西	1.5 m/s	稚内地方气象台
オホーツク	晴	8.2℃	南南西	7.5 m/s	網走地方气象台
十勝	みぞれ	1.3℃	西北西	1.3 m/s	帯広測候所
釧路	曇	9.9℃	南南西	12.8 m/s	釧路地方气象台
根室	晴	9.2℃	南	13.3 m/s	釧路地方气象台

7 タンチョウ確認羽数(市町村別)

(羽)

市町村		令和5年度第1回				令和5年度第2回
		成鳥	幼鳥	不明	計	
空知	長沼町	2	1	0	3	
	栗山町	0	0	0	0	
	由仁町	0	0	0	0	
石狩	千歳市	0	0	0	0	
胆振	むかわ町	5	3	0	8	
	厚真町	2	1	0	3	
	苫小牧市	0	0	0	0	
日高	日高町	4	0	0	4	
	新冠町	0	0	0	0	
留萌	天塩町	0	0	0	0	
宗谷	豊富町	0	0	0	0	
	浜頓別町	2	0	3	5	
	枝幸町	3	0	0	3	
オホーツク	網走市	0	0	0	0	
	小清水町	0	0	0	0	
	斜里町	0	0	0	0	
	大空町	0	0	0	0	
十勝	帯広市	2	0	0	2	
	中札内村	0	0	0	0	
	更別村	0	0	0	0	
	大樹町	61	8	0	69	
	広尾町	2	0	0	2	
	幕別町	23	1	0	24	
	池田町	4	1	0	5	
	豊頃町	23	5	0	28	
	浦幌町	59	10	0	69	
	音更町	6	1	0	7	
	上士幌町	0	0	0	0	
	足寄町	0	0	0	0	
	陸別町	3	0	0	3	
	鹿追町	0	0	0	0	
	清水町	0	0	0	0	
	釧路	釧路市釧路	32	4	0	36
釧路市阿寒		113	15	0	128	
釧路市音別		44	1	8	53	
釧路町		7	0	0	7	
厚岸町		0	0	0	0	
浜中町		34	1	2	37	
弟子屈町		7	0	0	7	
標茶町		147	19	3	169	
鶴居村		253	33	0	286	
白糠町		29	4	0	33	
根室	根室市	9	1	0	10	
	別海町	29	3	0	32	
	標津町	4	1	0	5	
	中標津町	9	2	0	11	
小計		918	115	16	1,049	
飼育個体		35	2	0	37	
合計		953	117	16	1,086	

令和5(2023)年12月25日

令和5(2023)年12月5日実施のタンチョウ越冬分布調査結果について

正富宏之

2023年12月5日に行われた令和5年度第1回タンチョウ越冬分布調査結果について、従来と同様に動物園および類似施設の飼育個体を除き、野生個体のみを対象としてコメントを記しておく。

I. 分布域

A) 今年の状況

調査は空知総合振興局(以下総合・振興局を省略)、石狩、胆振、日高、留萌、宗谷、オホーツク、十勝、釧路、根室の10管内で行われ、管内数は前年と同じながら、前年の後志の代わりに、今年は留萌が含まれた。このうちタンチョウが目撃されたのは、留萌、石狩、オホーツクを除く7管内で、石狩とオホーツクは前年に続き目撃記録がない。

調査した市町村は6(7)市(以下カッコ内は前年の数値)、35(36)町、3(3)村の計44(46)自治体で、そこに351地区の調査地区を設け、そのうち161地区でタンチョウが目撃された。従って、タンチョウが記録された調査地区割合は45.9%を示し、3(4)市、22(21)町、1(1)村の計26(26)自治体で目撃されたから、調査を行った自治体の59.1(56.5)%で生息が確認されたことになる。

確認地区数が最も多いのは釧路管内の97地区で、管内調査地区数の60.2%を示し、次いで十勝43地区の26.7%、根室13地区の8.1%の順で、この3者で確認地区数全体の95.0%を占めた。

また、市町村別の確認地区数は釧路管内の鶴居村が最も多い42地区で、全確認地区数の26.1%を占めた。次いで釧路市が24地区で14.9%を示し、標茶町が15地区で9.3%、十勝管内の浦幌町が13地区で8.1%、幕別町が8地区で5.0%、広尾町と豊頃町が7地区で4.3%などとなる。

B) 前年(令和4年)との比較と今年の特徴

タンチョウの生息が記録された振興局数は前年同様に7局であるが、今年の調査時に目撃記録が得られなかった石狩とオホーツク両管内でも、実際には調査日前後に生息が確かめられている。従って、タンチョウ生息管内数は昨年と同じ9管内ながら、今年は石狩管内での新規繁殖の確認といった定着現象も起き、全道的に見た分布に緩やかながら拡大の傾向が認められる。

また、鶴居村・釧路市・標茶町という釧路管内の3自治体の合計数は、全体の確認地区数の約5割(50.3%)を占め、調査時点の結果からは、依然として釧路管内への地域的集中は改善されていないと言える。

しかし、同一管内で、前年と今年で確認数がかなり異なるところもある。その代表が十勝管内の浦幌町で、前年の確認地区数2に対し、今年は6.5倍の13地区で記録され、目撃羽数も5羽から一挙に69羽へ増加した。ただし、浦幌町の2021年の調査では19羽を記録しているし、昨年は近隣の大樹・幕別の両町で合わせて144羽が目撃されたのに、今年の両町の記録は93羽を数えるに留まっている。従って、年による個体の移動が確認地区数変化の主要因の可能性はあるほか、確認地区数が十勝管内全体で前年より9地区も多いのに、両年の目撃羽数はほぼ同数のため、調査時にタンチョウが前年より管内に分散していたと考えられる。

いずれにしても、調査地区数に対する確認地区数の割合は、主要な生息地の十勝・釧路・根室のいずれの管内でも昨年を上回っており、北海道全体を見ても緩やかに分布の拡大が進行していると思われる。しかし、より確実な判断は来年以降の調査結果を見る必要がある。

II. 羽数

A) 今回の記録羽数

確認された羽数は1,049(933)羽(以下カッコ内は前年の数値)で、そのうち今年生まれの幼鳥が115(98)羽である。しかし、成鳥・幼鳥不明個体が総数に16(17)羽含まれるため、実際の幼鳥数は記録数を少し上回るかもしれない。

管内別羽数は配布資料の如くで、全体羽数における各管内の割合は、多い順に釧路72.1(71.6)%、十勝19.9(21.2)%、根室5.5(5.4)%、胆振1.0(0.6)%、宗谷0.8(0.2)%、日高0.4(0.6)%、空知0.3(0.3)%となり、釧路・十勝・根室の3管内で全体の97.5(98.2)%を占める。

調査を行った44市町村別に、目撃された羽数を多い順に10ヵ所挙げると、鶴居村286(280)羽、釧路市217(130)(このうち阿寒町128(27)、音別町53(61))羽、標茶町169(150)羽、大樹町69(90)羽、浦幌町69(5)羽、浜中町37(54)羽、白糠町33(14)羽、別海町32(18)羽、豊頃町28(29)羽、幕別町24(54)羽となる。

上記の上位3位までの羽数を分布割合で示すと、鶴居村が27.3(30.0)%、次いで釧路市が20.7(13.9)%、標茶町16.1(16.1)%となり、上位10自治体の合計数が目撃数全体の91.9(91.4)%を含むことになる。また、上位10自治体で記録された羽数を振興局別に集計すると、釧路管内が5(5)自治体742(642)羽で全体の70.7(68.8)%、十勝管内が4(3)自治体190(173)羽で18.1(18.5)%、根室管内が1(2)自治体32(38)羽で3.1(4.1)%となる。

なお、今年は115(98)羽の幼鳥が確認され、総数(成鳥・幼鳥不明数を除く)に対する割合は11.1(10.7)%を示した。振興局別では、釧路が77(74)羽で管内記録数(成鳥・幼鳥不明数を除く)の10.4(11.4)%、十勝が26(16)羽で12.4(8.1)%、根室が7(6)羽で12.1(12.0)%、その他が5(2)羽で19.2(11.8)%となる。市町村の総目撃羽数が多い順の5ヵ所とその他で幼鳥数の占める割合を挙げると、鶴居村が幼鳥33(27)羽で、村内の総記録数(成鳥・幼鳥不明数を除く)の11.5(10.0)%を示し、次いで釧路市20(21)羽で10.5(16.8)%、標茶町19(11)羽で11.4(7.4)%、浦幌町10(1)羽で14.5(20.0)%、大樹町8(5)羽で11.6(5.6)%、その他25羽で10.7%などである。

B) 前年との比較を含めた今回の特徴

今回記録されたタンチョウは1,049(933)羽で、前年より116(32)羽多いが、過去最多を記録した2019年の1,215(幼鳥123・不明78を含む)羽には166(282)羽及ばない。

振興局別に確認羽数を前年と比べると、主要分布地の釧路・十勝・根室のいずれも前年の記録を上回るが、増加実数は十勝が11羽、根室が8羽とわずかなのに対し、釧路は88羽と多い。各振興局により調査の実態が異なるため確かなことは言えないが、調査精度向上が認められる根室・十勝両管内の確認数が昨年同様のレベルであることから、主に釧路で見落とされていた個体が新たに確認されたのが一つの理由かもしれない。

このことは、季節の進み具合等で年により変化するタンチョウ所在場所を、調査時期になるべく的確に把握して調査対象とすることが、より確実なタンチョウの分布と個体数把握を行うのに重要であることを示している。特に釧路管内にある三大給餌場(中雪裡・下雪裡・阿寒)では、給餌量削減・給餌開始時期設定等により、ある程度の個体が、本調査時期に周辺へ以前より分散している可能性もあり、その実態を把握しておく必要がある。

今回は幼鳥が前年より17羽多い115羽目撃されており、総数に対する幼鳥割合(繁殖率)も前年より0.4ポイント高く、今回の調査結果からは、繁殖状況は比較的良好であったと言える。振興局別にみて、根室・十勝に比べて釧路の割合がやや低いのは、一般に幼鳥連れの家族は比較的遅くまで繁殖時の縄張り内で暮らし、越冬期に大きな群れをつくる釧路へはやや遅れて加わる傾向を示すからに他ならない。ただ、今回の羽数記録を基にした幼鳥割合は、道内に現存する個体群よりかなり少ない羽数を基にした値であるため、より実態に即した繁殖率は、第2回の調査結果を参照すべきである。

Ⅲ. 提言

A) 調査地区数の増加と調査方法

まず調査に関与された道の担当職員並びに現地で実際に調査に参加された多くの方々の労に、深甚より感謝の意を表したい。なかでも、根室管内において調査対象地区の見直し等により、より実態に近い成果が得られたことは、その調査を担当された方々のご努力のたまものと、心から賛辞をお送りしたい。

しかしながら、目撃羽数が実態よりもかなり低いことを考えると、他地域でも調査方法には一層の改善の必要があると思われる。根室のみならず、タンチョウの生息が想定される全ての振興局で、年変化に応じた調査地区数や調査対象地の変更、それに見合う調査協力者の確保が必要であろう。さらに、それを補う手法として、個人ないし機構・団体等から事前により広く情報を集める工夫など、様々な情報収集方法の検討・実行も必要である。今回も、折角一般からの情報収集の試みが計画されながら、実施できなかったことは残念としか言いようがない。

ただ、前回も記しているが、道東の管内において事前情報収集不十分のため、タンチョウの存在が今年も記録されなかった事例がある。同管内には野鳥やタンチョウについて情報をお持ちの方も多くおられるゆえ、早急な改善を望んでおきたい。

B) 環境教育としての事業参加

、これについては、繰り返し提言してきたが、何も進展が見られない。昨年の提言をそのまま再度記しておくが、ぜひ改善の策を講じていただきたい。

つまり、タンチョウは個体数増加に伴い分布域を広げつつあり、単に釧路市の阿寒町や鶴居村だけが、調査参加可能な地域なのではない。各地域における学校・教育機関・関係者が郷土の自然理解のための手がかりとして、調査参加を有効利用していただきたい。また、今回の調査結果を報道されるメディアの方にも、単に羽数や分布のことのみならず、この調査の環境教育的意義のあることを、少しでも理解していただけるような報道をお願いしたい。